

幼稚園教諭と実習生の保育行動の比較

井上 弥・赤木朋子*・広渡 良*・望月悦子**
池田明子**・松島英恵**・原田智江**
(2000年12月7日受理)

Differences between Teachers and Student Teachers in Nursing Behaviors

Wataru INOUE, Tomoko AKAGI, Ryo HIROWATARI, Etsuko MOCHIDUKI,
Akiko IKEDA, Hanae MASTUSHIMA and Tomoe HARADA

Abstract. The purpose of this study was to examine features of daily childcare behaviors in a kindergarten by comparing teacher's behavior with student-teacher's. Five teachers and 3 student-teacher's behaviors were recorded by VTR for this purpose. Each subject's behaviors for 15 minutes were divided into 60 sections (duration of each section was 15 seconds), and behavior in each section was evaluated into 50 categories. Cluster analyses revealed features of childcare behaviors.

平成10年度の幼稚園教育要領の改訂に伴い、幼児期の教育の重要性が再指摘され、特に保育者の能動的役割が重視されるようになった。しかし、幼稚園教育や保育所保育についての実証的研究はまだ少なく、保育者の役割も充分検討されてきていない。

これまで、経験年数などの保育者の特性が幼児への援助や指導方法に及ぼす効果がいくつか検討されている。例えば、堀(1997)は、公立幼稚園教諭への半構造化面接から、経験年数の長い保育者は、幼児の年齢や時期、文脈によって、直接指示したり、見守ったりする指導方法を使い分けていること、指導の時間的展望が長くなっていることを見いだしている。また、保育者の保育観などの特性が子どもへのかかわり方に影響を及ぼすことが明らかにされてきている(細川・若林, 1992; 笠原, 1995; 若林・細川, 1992)。

幼稚園教育や保育所保育は、岩立・樟本・福田(1998)が指摘するように、生活と遊びを通して学びが展開されるため、保育者が日常の指導をどのように行っているかを行動レベルで明らかにすることが重要になるだろう。しかし、これらの研究では、保育者の行動を質問紙によって測定してお

り、富田・田上(1999)が指摘するように、日常の保育を基本的な行動レベルから検討した研究はほとんど見られない。

このような観点から、富田・田上(1999)は、平成2年度の幼稚園教育要領改訂を踏まえ、ビデオによる保育行動の自己評価によって、幼稚園教諭の援助スキルがどのように変化するかを検討している。その結果、年少・年中担任の教諭では、声をかける、話しかけるなどの積極的援助スキルの使用が増加し、また、年長担任の教諭では、行動を促す、ヒントを言うなどの積極的援助スキルの使用が増加することなどを明らかにした。この研究では、具体的な行動を分類して、基本的な行動レベルで保育行動を捉えているが、観察は、自由保育場面でも、教室内で遊具や教材を自由に使い、遊びを展開している場面に限定していた。さらに、ビデオ自己評価の効果に焦点が当てられているため、状況や文脈によるスキルの使い分けなど、各年齢児担当教諭の特徴を明らかにするための検討が充分なされていない。

そこで本研究では、富田・田上(1999)と同様に、幼稚園教諭と幼稚園の教育実習生の日常の保育行動をVTRによって記録し、行動レベルで特

*広島大学大学院教育学研究科, **広島大学附属三原幼稚園

徴を分析することによって、幼稚園教育や保育所保育における保育者の役割を探索的に検討することを目的とした。

方法

対象幼稚園 H大学附属幼稚園(年少1クラス、年中・年長各2クラス)。1日のカリキュラムは、幼児が園内で自由に遊びを選ぶ自由保育時間と、クラス単位で担任教諭と遊びを展開する設定保育時間から構成されている。

被験者 H大学附属幼稚園教諭年少担任1名(以下Aとする)、年中担任2名(以下B、Cとする)、年長担任2名(以下D、Eとする)、計5名、年少、年中、年長担当教育実習生(H大学4年次生)各1名(以下年少担当X、年中担当Y、年長担当Zとする)、計3名、合計8名。なお、各幼稚園教諭の経験年数は、Table 1に示した。

Table 1 各幼稚園教諭の経験年数

| 被験者 | 担当学年 | 経験年数 |
|-----|------|------|
| A | 年少 | 17 |
| B | 年中 | 23 |
| C | 年中 | 35 |
| D | 年長 | 5 |
| E | 年長 | 17 |

手続 平成12年6月～7月にかけて、各教諭及び実習生の幼稚園内での保育の様子を約30分間VTR撮影した。撮影に際しては、被験者のまわりの状況を広く撮影するカメラ1台と、被験者の表情などの細部を撮影するカメラ1台の計2台のビデオカメラを用いて撮影した。また、被験者にはワイヤレスマイクをつけてもらい、発話内容も録音した。撮影は、登園後しばらくたって、子どもたちが安定して活動をはじめてから開始した。また、幼児の行動に年齢相応の特徴が出やすく、それに応じて保育者の行動の特徴もあらわれやすいと考えられる園内(園庭及び教室)で被験者と幼児が遊具や教材を自由に使って遊びを展開する自由保育時間に限定して、VTR撮影を行った。

結果及び考察

1. 分析方法 まず、富田・田上(1999)の「援

助スキル自己評価」項目に加え、対象幼稚園教諭5名に求めた「日常的に行う保育行動」の自由記述を参考に、Table 2に示した、50項目からなる「幼稚園教諭の保育行動カテゴリー」を作成した。次に、撮影されたVTRから2台のビデオカメラが確実に被験者を追跡できた時間のうち最も短かった15分間に合わせて、各被験者のVTRから15分間を選んだ。これを15秒毎60区間に区切り、各区間毎に被験者が行った行動のカテゴリーを評定した。評定は各15秒間に行動が生起すれば1、生起しなければ0とし、各項目の最大頻度は60となる。

2. 保育者別の行動特徴 同時にあるいは連続して生起している行動項目をまとめ、各担任教諭及び実習生の保育行動の特徴を検討するために、まず、各担任教諭及び実習生の15分間のVTR録画において、全く出現しなかった項目は除外した。15分間に少なくとも1回は出現し、分析に用いられた項目数及び平均出現頻度は、年少担任Aで32項目(平均8.7回)、年中担任Bで33項目(平均6.1回)、年中担任Cで32項目(平均8.8回)、年長担任Dで32項目(平均5.9回)、年長担任Eで29項目(平均8.2回)、年少実習生Xで33項目(平均6.6回)、年中実習生Yで25項目(平均9.8回)、年長実習生Zで28項目(平均6.7回)であった。年中実習生Yの項目数が最も少なく、平均出現回数は最も多くなっており、同じ行動を反復していることがうかがえる。それ以外では、年長担任E、年長実習生Zで項目数がやや少ないことから、年長児ほど保育者の行動種類が減少することも考えられるが、全体的には、平均30.5種類の行動が、平均7.6回程度みられることがわかった。

Table 2からもわかるように、担任教諭、実習生ともにみられる行動項目は、「ひとりで他の場所に移動する」、「ひとりごとを言う」、「話して聞かせる」、「幼児の活動に助力する」、「考えを言う」、「誉める」、「行動の依頼をする」、「行動を命令する」、「幼児の行動に対して一緒に考える」、「幼児の行動について質問する」、「幼児からの考えに対して確認をする」、「幼児の気持ちを聞く」、「指でさし示す」、「驚いたふりをする」、「涙を拭く」の15行動項目であった。教諭5人中4人にはみられるが、実習生には全くみられない行動項目は、「冗談をいう」であった。

幼稚園教諭と実習生の保育行動の比較

Table 2 行動項目及び被験者別出現頻度

| 項 目 名 | 担 任 教 諭 | | | | | 実 習 生 | | | |
|------------------------|---------|----|----|----|----|-------|----|----|--|
| | A | B | C | D | E | X | Y | Z | |
| 1. ひとりで他の場所に移動する | 9 | 5 | 5 | 8 | 9 | 13 | 4 | 7 | |
| 2. ひとりごとを言う | 3 | 3 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 3 | |
| 3. 幼児を呼びに行く・探す | — | — | 4 | — | 2 | 5 | — | — | |
| 4. 幼児の目線の高さにあわせてしゃがむ | 38 | — | 41 | 10 | 4 | 29 | 56 | 11 | |
| 5. いい場면을写真に撮る | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 6. 教育と直接関わらない事務的行動をする | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 7. 電話をする・受ける | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 8. 保育者同士で話す | 3 | 4 | — | — | 6 | — | 3 | 1 | |
| 9. 保護者と話す | — | 2 | — | — | — | — | — | — | |
| 10. クラスだよりを書く | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 11. 保育について勉強する | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 12. 月案・週案を書く | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 13. 子どもの記録をとる | — | — | — | — | 1 | — | — | — | |
| 14. 連絡帳の確認・記述をする | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 15. 教育環境を準備構成する | 13 | 4 | — | 3 | 20 | — | 2 | 2 | |
| 16. 教育環境の整理整頓・清掃をする | 3 | 2 | 5 | 12 | — | — | 1 | 5 | |
| 17. 他児のしていた遊びをみんなに紹介する | 3 | 4 | 12 | — | 11 | 10 | — | 4 | |
| 18. 話して聞かせる | 2 | 3 | 18 | 6 | 1 | 2 | 4 | 1 | |
| 19. ピアノを弾く・歌をうたう | — | 1 | — | — | — | — | — | — | |
| 20. 用具の使い方を紹介する | — | 18 | 3 | — | 1 | — | 29 | 1 | |
| 21. 幼児の活動に助力をする | 18 | 2 | 8 | 4 | 1 | 9 | 4 | 19 | |
| 22. 幼児の行動を禁止する | 1 | 2 | 2 | 4 | — | 2 | 4 | 1 | |
| 23. 幼児の行動を中止させる | — | 2 | — | 1 | — | 2 | — | — | |
| 24. わからないことを教える | 1 | 3 | 3 | 2 | — | 1 | — | — | |
| 25. 考えを言う | 26 | 17 | 14 | 22 | 29 | 19 | 11 | 14 | |
| 26. 行動を促す | 1 | 2 | 1 | 2 | — | 1 | — | 7 | |
| 27. 指名をする | 1 | 1 | — | 2 | — | — | — | — | |
| 28. 指でさし示す | 6 | 4 | 4 | 5 | 17 | 3 | 4 | 5 | |
| 29. 冗談を言う | 1 | 3 | 2 | 4 | — | — | — | — | |
| 30. 遊びへ参加する | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 7 | — | — | |
| 31. 幼児と他の場所へ移動する | 5 | — | 4 | 9 | 4 | 1 | — | 11 | |
| 32. 要求を聞き入れる | 6 | 9 | 4 | 4 | — | 6 | — | 2 | |
| 33. 誉める | 14 | 10 | 3 | 2 | 7 | 11 | 7 | 5 | |
| 34. 行動の依頼をする | 3 | 4 | 8 | 5 | 8 | 1 | 5 | 4 | |
| 35. 行動を命令する | 17 | 9 | 12 | 6 | 6 | 2 | 9 | 6 | |
| 36. なだめる | — | — | 1 | 1 | — | 1 | — | — | |
| 37. 幼児の行動に対して一緒に考える | 4 | 24 | 3 | 2 | 6 | 11 | 1 | 3 | |
| 38. 幼児の行動に対して否定的に評価する | — | — | 1 | 1 | — | 1 | — | — | |
| 39. 幼児の行動について質問する | 17 | 17 | 30 | 14 | 18 | 23 | 31 | 23 | |
| 40. 幼児からの質問を聞く | 3 | 8 | — | 4 | 11 | 1 | 1 | 1 | |
| 41. 表情で伝える | — | — | — | — | 1 | 2 | — | — | |
| 42. 目を合わせる | — | — | — | — | — | 1 | — | — | |
| 43. 驚いたふりをする | 9 | 6 | 16 | 8 | 22 | 7 | 1 | 6 | |
| 44. 幼児の体を押さえる | — | 4 | — | — | — | — | 6 | 2 | |
| 45. 手をつなぐ | 7 | 2 | 9 | — | 4 | 1 | 1 | — | |
| 46. うなづく | 11 | — | 1 | 1 | 9 | 4 | — | 1 | |
| 47. 幼児からの考えに対して確認をする | 12 | 11 | 15 | 5 | 23 | 7 | 28 | 14 | |
| 48. 様子を見守る | 7 | — | 2 | 5 | 2 | 1 | 15 | — | |
| 49. 涙を拭く | 12 | 7 | 31 | 17 | 1 | 7 | 12 | 15 | |
| 50. 幼児の気持ちを聞く | 22 | 7 | 19 | 14 | 9 | 22 | 6 | 13 | |
| 1回以上出現した項目数 | 32 | 33 | 32 | 32 | 29 | 33 | 25 | 28 | |

次に、教諭及び実習生1人1人の保育行動について、項目間の単純マッチング係数を求め、最遠隣法によってクラスター分析を行った。距離10.5でクラスターに分割した結果、年少担任Aで10 (Figure 1 参照)、年中担任Bで8 (Figure 2 参照)、年中担任Cで8 (Figure 3 参照)、年長担任Dで9 (Figure 4 参照)、年長担任Eで11 (Figure 5 参照)、年少実習生Xで8 (Figure 6 参照)、年中実習生Yで5 (Figure 7 参照)、年長実習生Zで10 (Figure 8 参照)のクラスターが得られた。同年齢児の担任と比べると、実習生のクラスター数が少なく、項目数には大きな差がないことから、より多くの行動項目を同時に行っていると考えられる。

出現頻度が少ないため、出現の同時性ではなく、出現しない共通性で見かけ上の同一クラスターになっている第1クラスターを除いて、どのような行動が同一クラスターになっているかをみていくと、年少担任Aでは、「うなづく」―「涙を拭く」という行動、「要求を聞き入れる」―「驚いたふりをする」―「誉める」という行動、「幼児の考えに対して確認をする」―「幼児の気持ちを聞く」という行動がそれぞれ同一クラスターとなってい

た。年中担任Bでは、「誉める」―「行動の命令をする」という行動が、年中担任Cでは、「幼児の活動に助力をする」―「行動を命令する」という行動、「手をつなぐ」―「幼児からの考えに対して確認をする」という行動、「幼児の行動について質問する」―「涙を拭く」という行動がそれぞれ同一クラスターとなっていた。年長担任Dでは、「幼児の活動に助力をする」―「様子を見守る」―「指でさし示す」―「行動の依頼をする」―「驚いたふりをする」という行動、「幼児と他の場所へ移動する」―「幼児の気持ちを聞く」という行動、「幼児の目線の高さにあわせてしゃがむ」―「話して聞かせる」という行動が、年長担任Eでは、「幼児を呼びに行く・探す」―「手をつなぐ」―「行動を命令する」―「うなづく」という行動、「行動の依頼をする」―「幼児からの質問を聞く」という行動がそれぞれ同一クラスターとなっていた。「行動の命令をする」といった幼児の行動を指示・統制する行動が、「誉める」、「幼児の活動に助力をする」といった支援する行動とともにクラスターを形成している点が興味深い。

これに対して、年少実習生Xでは、「幼児の活

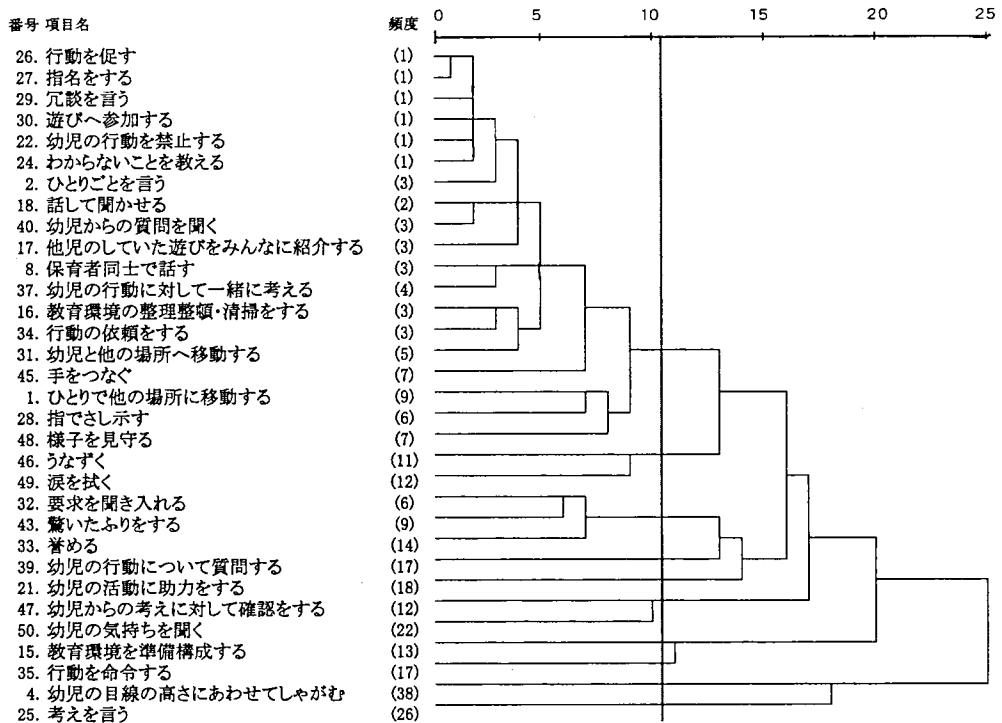


Figure 1 年少担任Aの行動項目クラスター

幼稚園教諭と実習生の保育行動の比較

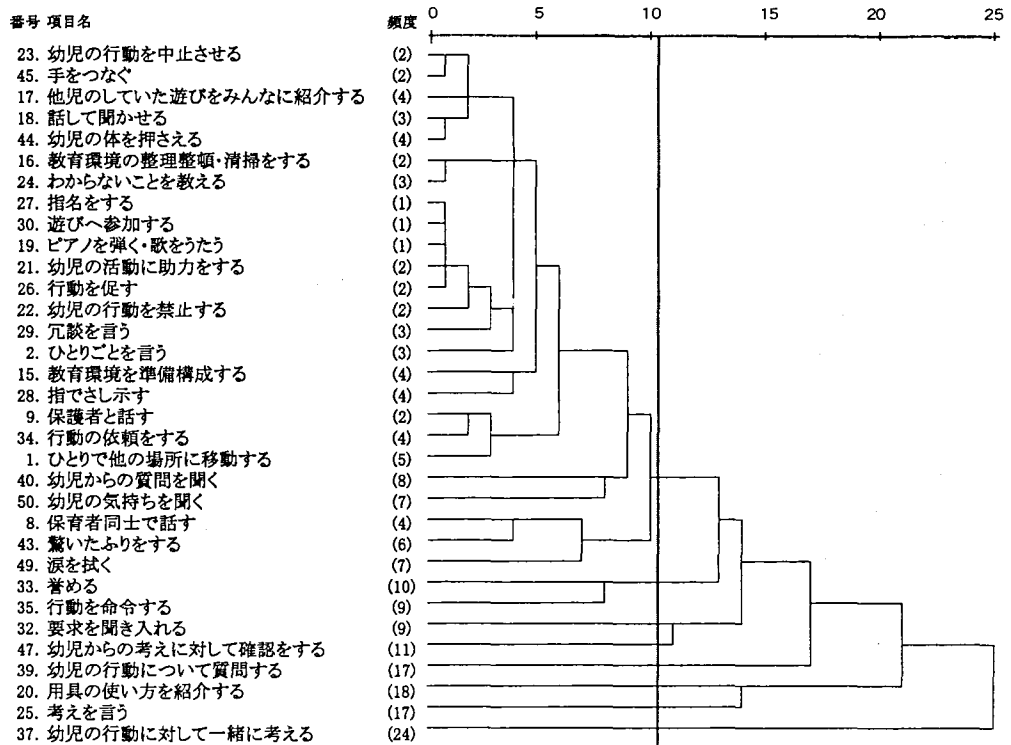


Figure 2 年中担任Bの行動項目クラスター

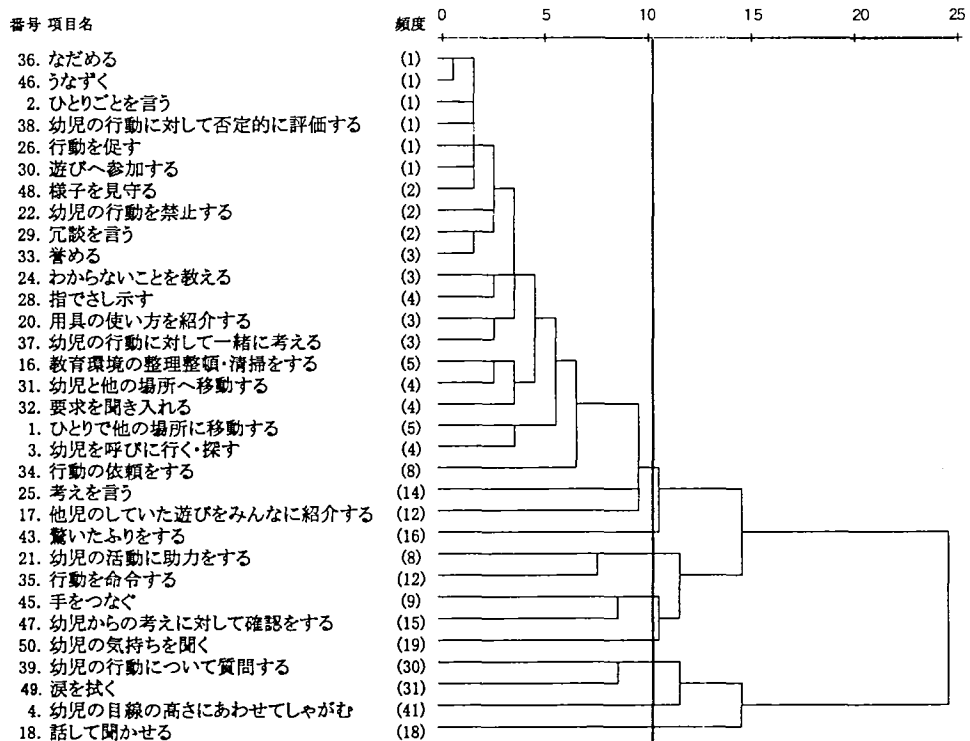


Figure 3 年中担任Cの行動項目クラスター

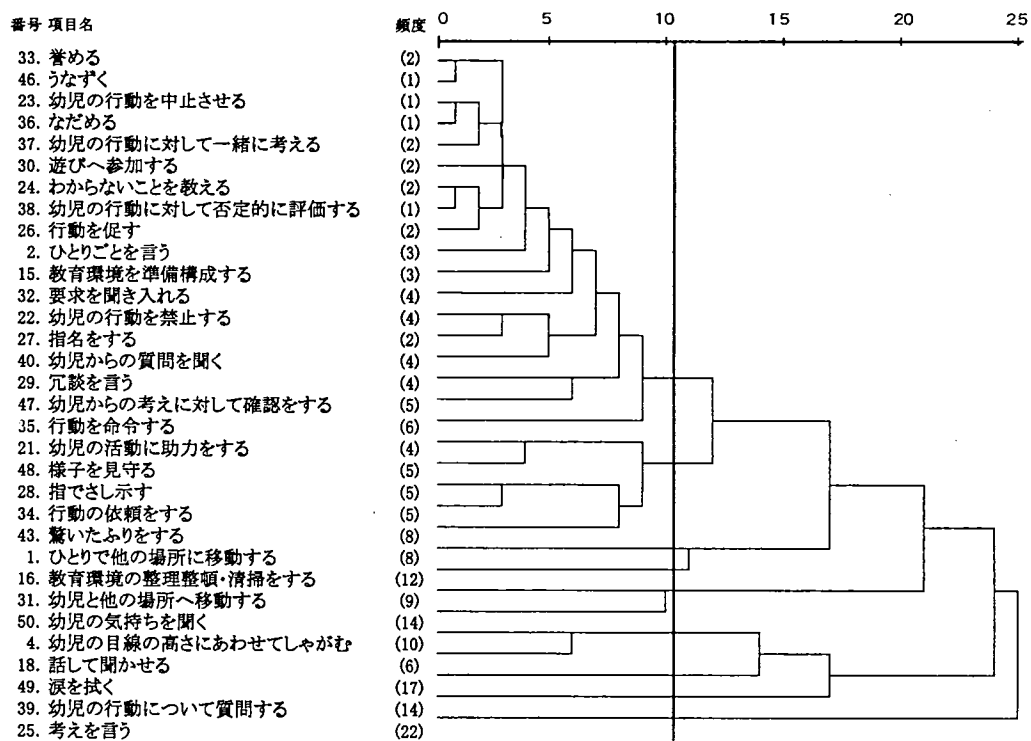


Figure 4 年長担任Dの行動項目クラスター

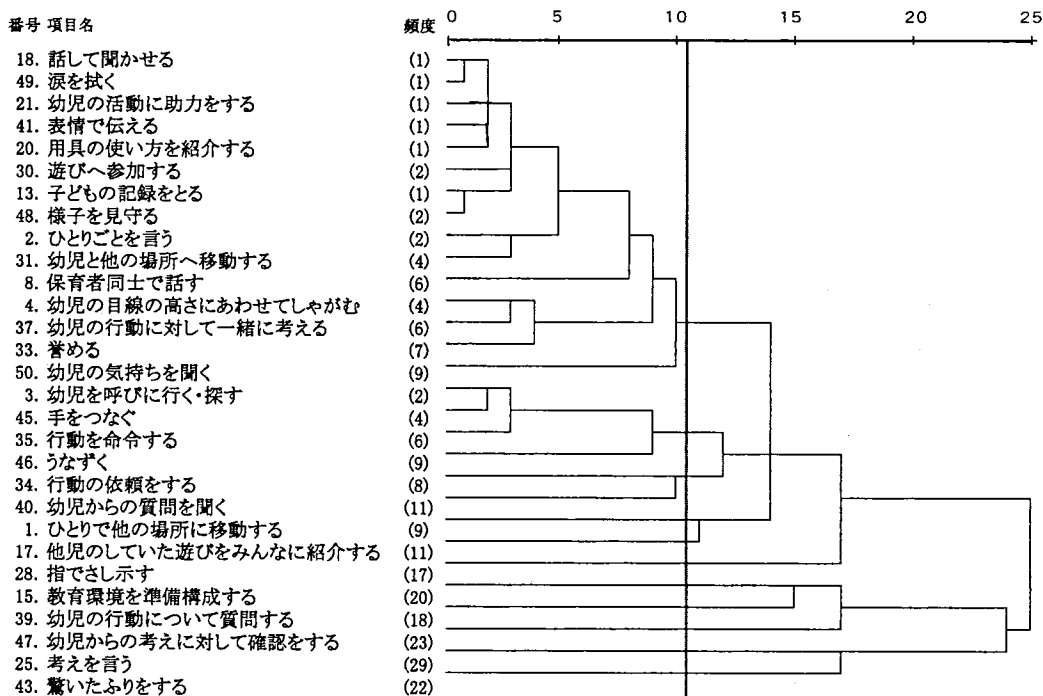


Figure 5 年長担任Eの行動項目クラスター

幼稚園教諭と実習生の保育行動の比較

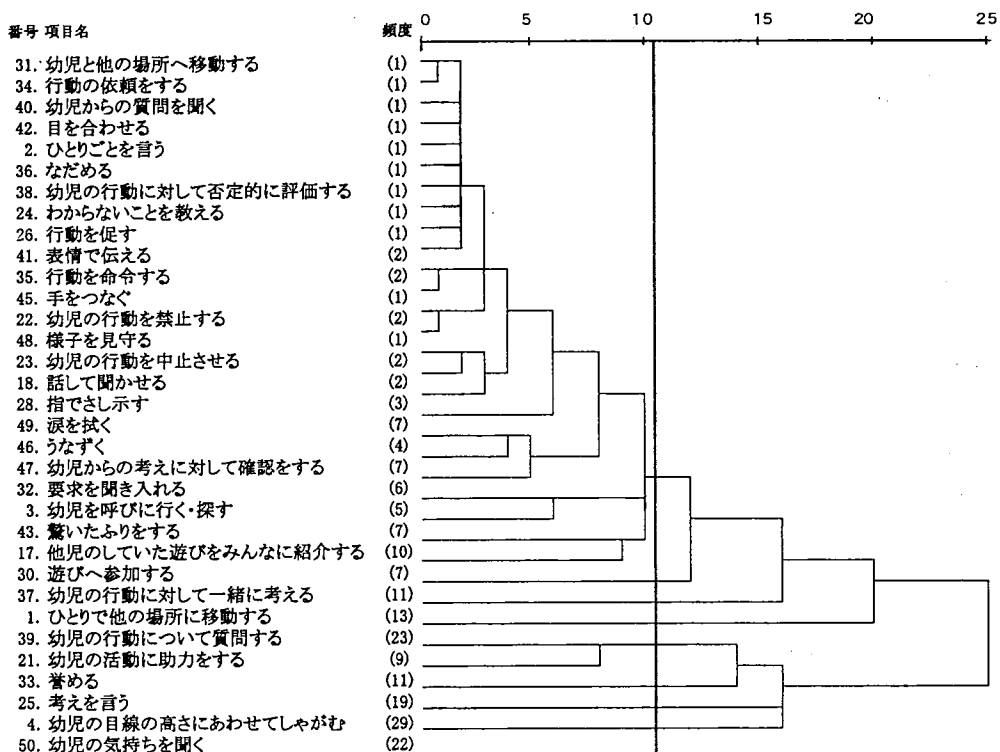


Figure 6 年少実習生Xの行動項目クラスター

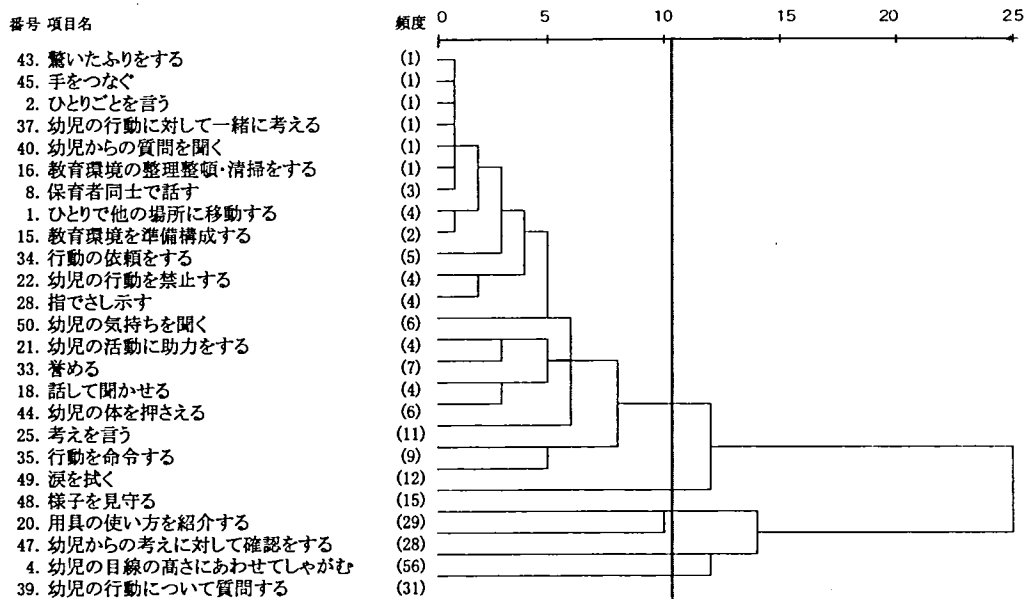


Figure 7 年中実習生Yの行動項目クラスター

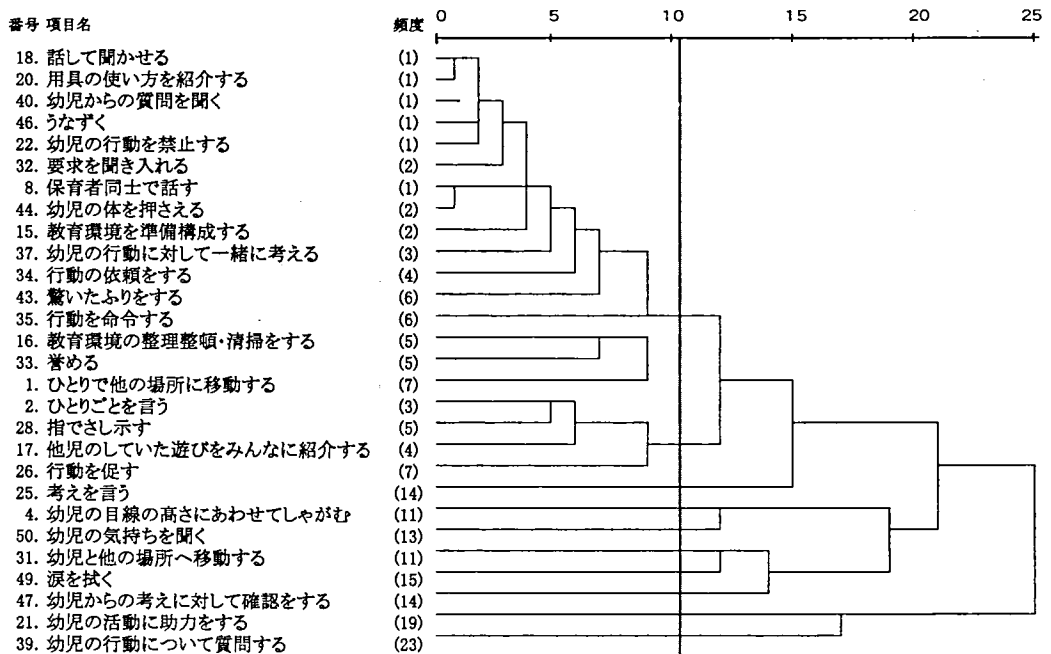


Figure 8 年長実習生Zの行動項目クラスター

動に助力する」—「誉める」という行動、年中実習生Yでは、「用具の使い方を紹介する」—「幼児からの考えに対して確認をする」という行動、年長実習生Zでは、「ひとりごとを言う」—「指でさし示す」—「他児のしていた遊びをみんなに紹介する」—「行動を促す」という行動がそれぞれ同一クラスターとしてまとまっていた。しかし、このようなクラスターは担任教諭よりも少なく、担任教諭では、比較的頻度が多く、支援する行動とともに生起していた「行動の命令をする」という幼児の行動を指示・統制する行動が、ほとんど生起しない行動クラスターに含まれていた。

以上の本研究の結果から、担任教諭では、比較的高い頻度で見られる行動項目にも、行動間の関連が見られるのに対し、実習生の場合にはそのような関連があまり見られないことがわかった。また、担任教諭が支援と組合わせて指示・統制するのに対して、実習生では指示・統制すること自体が少ないことが示唆された。ただし、本研究の結果は、15分間の行動の分析に基づくものであり、保育行動の特徴を明らかにするためには、より長時間の行動について同様の検討を進めることが必要であろう。

引用文献

- 堀 淳世 1997 幼稚園教諭が語る指導方法 保育学研究, 35, 281-287.
- 細川政宏・若林明美 1992 保育者の幼児へのかかわり行動と保育観との関係について(その1) 日本保育学会第45回大会発表論文集, 432-433.
- 岩立京子・樟本千里・福田真奈 1998 幼稚園教諭および保育所保育士のキャリア形成(1)ー保育者の保育実践における経験内容およびその経験年数による差についてー東京学芸大学紀要I部門, 49, 215-220.
- 笠原正洋 1995 保育者の信念と子どもへの関わり行動との関連 日本心理学会第59回大会発表論文集, 351.
- 富田久枝・田上不二夫 1999 幼稚園教員の援助スキル変容に及ぼすビデオ自己評価の効果 教育心理学研究, 47, 97-106.
- 若林明美・細川政宏 1992 保育者の幼児へのかかわり行動と保育観との関係について(その2) 日本保育学会第45回大会発表論文集, 434-435.